

第61回

全国お茶まつりが あいこうが市民ホールを主会場に開催

滋賀県内での開催は
昭和43年以来39年ぶり

11/25
(日)

開催

フォト
コンテスト

「近江の茶」フォトコンテストの 作品を募集します

全国お茶まつりの開催にあわせ「近江の茶」フォトコンテストの作品を募集します。

作品のテーマ：茶畑の風景やお茶の生産・加工・販売に携わる人や茶の間のといったお茶への親しみを感じさせる写真。

締切：7月20日(金)

作品規格：カラー四つ切プリントで未発表のもの。

表彰：優秀作品には、賞金が贈られます。

詳しくは大会事務局へお問い合わせください。

問い合わせ 大会事務局 (社)滋賀県茶業会議所
☎ 63-6960 FAX 63-5204



▲昨年の第60回全国お茶まつり
(静岡県川根本町)

全国
お茶まつり

11月25日(日)開催

お茶まつりでは、褒章授与式および消費拡大イベントなどがあり、これらは11月25日(日)、あいこうが市民ホールを主会場に開催されます。芸術品のようなお茶やお茶に関連した写真、また児童による絵画等の展示などに加え、様々な茶の試飲・販売、滋賀県の特産品等の物産展などが予定され、お茶について学べる催しが盛りだくさんあります。また、水口、土山の両歴史民俗資料館では、お茶まつりの開催にあわせ、特別展示を予定しています。

ペット
ボトル茶

好評
発売中

「甲賀のお茶」「ゆめおうみ」「ゆうがお茶」「近江のしずく」

甲賀市産のお茶を使用したペットボトル茶が好評です。JA甲賀郡などが開発した「甲賀のお茶」「ゆめおうみ」、水口町商工会女性部が開発した「ゆうがお茶」、滋賀県茶業組合が開発した「近江のしずく」など続々と新しいペットボトル茶が開発されています。



▲続々と開発される甲賀市産のお茶をブレンドした新しいペットボトル茶

これらのお茶は、発売当初から大変好評で甲賀市をPRするために活躍中です。

甲賀市はお茶の栽培に適した土地柄

お茶の栽培には気象や土壌などの条件が大きく影響を受けます。また昼夜の気温差がはつき

りとした場所でのお茶は品質が良いとされています。甲賀市は1日の気温の較差が大変大きくまた霧が発生しやすいため、お茶づくりに適している土地柄といえるのです。

八十八夜の5月2日頃には市内の茶畑で、農林大臣賞受賞をめざし品評会出品のための手摘みが始まります。市内の生産農家の中では日々お茶づくりの研究が行われ、関西茶品評会や全国茶品評会などでも常に上位に入賞していることから、今年の品評会にも期待が寄せられています。



▲生産量・栽培面積とも県内一を誇る土山の茶園

県内一の生産量を誇る甲賀のお茶

市内では主に土山、信楽、水口の各地域で生産され、それらの栽培面積は584ha、生産量は712tと県内生産量の約8割と大半を占めています。特に土山地域は生産量・栽培面積とも県内一番を誇っています。

【市内のお茶栽培面積】

地域	面積
土山	300ha
信楽	174ha
水口	65ha
その他	45ha
合計	584ha

5月頃から市内でもお茶摘みが始まります

味のバランスがとれた

「土山茶」

「土山茶」は、南北朝時代文和5年(1356年)、常明寺の僧「鈍翁」が京都の大徳寺から茶の実を持ち帰って寺で栽培したのが起源とされています。標高200m程度の丘陵地で栽培され、味はやや渋みが強く、上品でまったりとした程よい口当たりが特徴で味のバランスがとれたお茶です。

「朝宮茶」

1200年の伝統

「朝宮茶」は、約1200年前に伝教大使「最澄」が中国から茶の実を持ち帰り岩谷山(現在の仙禅寺一円)に植えたのが起源とされています。急な傾斜地と朝晩の寒暖差が大きい厳しい自然条件で栽培され、味はさっぱりとした渋みの中にも甘みがあり、また「香り朝宮」と呼ばれるとおり香りの素晴らしいのが特徴です。

また、宇治茶(京都府)、川根・本山茶(静岡県)、狭山(埼玉県)などと並び日本五大銘茶のひとつに数えられています。



▲日本五大銘茶に数えられる朝宮茶

「水口茶」

県内でも有数の良質茶

「水口茶」は、寛永年間(1624年~1644年)に茶人であった小堀遠州が茶の樹を植えさせたのが起源とされています。現在では主に今郷地区の茶園を中心に生産され、豊かな風土を生かしたお茶は県内でも有数の良質茶です。

